

令和3年度

31th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入賞作品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局
協賛 宮城県写真商業組合

入 賞 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	昇陽の刻	森 谷 勇	塩竈市千賀の台
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	早朝の水面	遠 藤 芳 雄	仙台市宮城野区
金 賞 (栗原市長賞)	伊豆沼の夏	遠 藤 一 治	仙台市泉区
金 賞 (登米市長賞)	カワセミとセキレイ	高 橋 徳 雄	栗原市築館
銀 賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	密になって	小野寺 浩 一	岩手県一関市
銀 賞 (登米市観光物産協会会長賞)	春待ちて	佐 藤 直 樹	登米市迫町
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	夜明けの群舞	高 田 毅	福島県南相馬市
銅 賞 (河北新報社賞)	虹の架け橋	千 葉 保 幸	栗原市若柳
銅 賞 (読売新聞東北総局長賞)	きらめき	阿 部 健 司	石巻市あゆみ野
銅 賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	暁の躍動	佐々木 幹 男	登米市迫町
銅 賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	朝霧燦燦	遠 藤 宏 昭	仙台市青葉区
入 選	日の出の飛翔	高 橋 明 男	登米市豊里町
入 選	日の出と共に	熊 田 貴 志	仙台市太白区
入 選	黄金色の朝に舞う	佐 藤 浩 章	福島県南相馬市
入 選	彼 誰 時	岩 崎 孝	仙台市太白区
入 選	晩秋一景	三 浦 明 彦	登米市中田町
入 選	群 翔	伊 藤 孝 喜	登米市中田町
入 選	暮れ行く内沼	高 橋 達 也	東松島市牛網
入 選	大空に響く	千 葉 学	大崎市古川
入 選	感 動	青 田 佳代子	宮城郡利府町

総 評

たくさんのご応募ありがとうございます。今回の審査で感じたのが空を埋め尽くす一斉の飛翔の良い作品が多く応募されていました。撮影日を見るといくつかの同じ日に撮影されたものでした。沢山飛べばいいってもんじゃない、という声も聞こえて来ますが、やはり、一斉に飛び立つところは現場で見ると感動します。年に何回かしかない色々な条件が揃った日に撮影できればラッキーです。その中でも、マガンが埋め尽くす空だけではなく、地上を絡める作品がこのところ上位に入る傾向にあります。出会い頭ではなくあらかじめ構図をイメージしてねらっているものだと思います。コンテストで選ばれるのは、インパクトやシャッターチャンス、美しさ、目新しさなど総合的に優れた構成の作品です。コロナ禍で撮影に出かけるのも躊躇してしまうご時世ですが、次回のコンテストでは新しい伊豆沼・内沼の傑作を心待ちにしております。

フォトコンテスト審査員 井村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。
日本写真芸術専門学校卒業。
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。
(社)日本写真家協会会員。チーター保護基金
ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師など。
著書『大地の鼓動』『あざらしたまご』他。

ホームページ
(J's WORLD Nature Photographer
Jun Imura's website)

最優秀賞（宮城県知事賞）「昇陽の刻」

森谷 勇



【評】晴天で朝日のタイミングに空を埋め尽くすほど一斉のマガンの飛翔の場面は年に数日しかないでしょうか。応募作品の中には撮影日が同じ他の方の作品が複数ありました。その中で森谷さんの作品は空のグラデーションと水面が背景のヨシのシルエットまでの全体が突出して美しくフレーミングされています。前景のヨシのシルエットから背景までシャープに見せる深い被写界深度とマガンがブレないシャッター速度の設定が良かったです。

金賞（栗原市長賞）「伊豆沼の夏」

遠藤 一治



【評】伊豆沼の夏の風景は大きなハスでピンク色と緑色に染められます。写真では花の大きさがなかなか伝えにくいですが、この作品はボートからでしょうか、低い目線から見上げた構図が一層大きさを見せていて、迫力があります。いくつか伸びた茎の並びの良い配置で、日差しが花弁を透過しきれいな色を見せられて良かったです。



【評】伊豆沼らしい一斉の飛翔は圧感の一言です。私も何度も通っていますが、これで良いという場面には未だあえずです。この作品の様な空一面を埋め尽くすほどの大群では画面いっぱいにとらえたく、空の割り合いを9割くらいにしてしまいがちで、地上を広くするには勇気が必要になります。遠藤さんの作品は、群れで飛ぶことを想定した上で構図を作って待っていたのでしょう。マガンの飛翔がなくても沼の景色としても完成されています。

金賞（登米市長賞）「カワセミとセキレイ」



【評】形の良い止まり枝にカワセミとセキレイが留まり会話が聞こえて来そうです。表情からカワセミがセキレイに何か文句言っている様にも見えます。光線は低く、黄色みがかったきれいな光です。背景は大きくボカしてシンプルになっているのが良いです。少し惜しいのがどちらかというと主役のカワセミのピントが少し甘いことです。

銀賞

(栗原市観光物産協会会長賞)
「密になって」

小野寺浩一

【評】 飛び立ったマガンたちが近くの田んぼに降り、再び一斉に飛び立ったところでしょうか。それにしても、この数と、飛翔するマガンの並びのきれいなところに加え、地上にいる鳥たちもフレーミングしたのがお見事です。順光の光線でマガンの模様がきれいに浮かび上がっているのもおもしろいです。



銀賞

(登米市観光物産協会会長賞)
「春待ちて」

佐藤 直樹

【評】 背景が白く雪の中のカワセミでしょうか。白の中に飛び宝石とも言われるカワセミの色がとても美しいです。カワセミはメスもきれいな色でフォトジェニックですね。ここまでアップでシャープな描写は素晴らしいです。構図ですが、カメラを少し右に振って穂をもう少し画面に入れるとより良かったです。

銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)
「夜明けの群舞」

高田 毅

【評】 空一面にドッカーンという飛び立ちシーンも魅力ですが、この作品の様に風景の中に飛ぶ場面も美しいです。空は朝焼けで色付き、背景の対岸の稜線はモヤが立ち込めて幻想的になる上に邪魔なものを隠してくれ風景写真的にも天候条件に恵まれています。露出やシャッター速度の設定も良いです。



銅賞（河北新報社賞）
「虹の架け橋」

千葉 保幸



【評】ダブルレインボウの全景がとらえられインパクトがあります。太陽が低ければ虹は半円に見えますが、完全なダブルで見えるのは条件が揃った超ラッキーな光景ですね。その全景を画面にとらえるには超広角レンズが必要になります。一本の道の奥行き感も効果的です。

銅賞（読売新聞東北総局長賞）
「きらめき」

阿部 健司



【評】シラサギの飛んでいる姿をアップで捉えた印象的な作品です。背景に伊豆沼の水面の逆光の光が重なり合う瞬間で幻想的な光景です。露出設定は真っ白なシラサギが黒くシルエットになる様な暗めの設定で、水面のきらめきが強調されたのが良かったです。

銅賞（朝日新聞仙台総局長賞）
「暁の躍動」

佐々木幹男



【評】朝日をバックに一齐に飛び立ったところを望遠レンズでねらうことで、圧縮効果により、より群生感を切り出せています。太陽が白飛びしない様に撮影時に少し暗めに撮影していると思いますが、稜線付近が暗く感じるので、仕上げで少し明るくするとさらに上位も!?

銅賞（毎日新聞仙台支局長賞）
「朝霧燦燦」

遠藤 宏昭



【評】パッと見がセピア調のモノクロ写真の様に見えるおもしろい色彩です。ハスが咲き終わったところにモヤがかかり、その向こうから二羽のハクチョウがこちらに向かってくるドラマチックな場面です。明るめの露出したことで幻想的な雰囲気を出してきたと思います。

入選 「日の出の飛翔」

高橋 明男



【評】ほどよく雲が焼け、水面の映り込みもきれいな瞬間に一齐に飛び上がった絶好の瞬間です。太陽の白飛びも抑えた露出設定です。ただ、画面上半分が背景にマガンのシルエットが同化しているので少し明るくすると良いと思います。

入選 「日の出と共に」

熊田 貴志



【評】超広角レンズでとらえたドッカーンの瞬間ですね。遠くの空までびっしりと飛んでいるのでかなりの規模であることが分かります。ぱっと見グラーションがきれいですが、色に目が奪われマガンの存在感を弱めているのが惜しいです。

入選 「黄金色の朝に舞う」 佐藤 浩章



【評】 飛び上がった直後の低いところを飛んでいるマガンの群れを望遠レンズでねらった場面ですね。朝日が昇って水面が黄色く染まり、薄らモヤが上がり水面の鳥たちもきれいです。ピントが手前を飛ぶマガンに合っているのも良いです。

入選 「彼誰時」 岩崎 孝



【評】 少し横長のフレームに切り取られた水面のグラデーションが美しいです。色味が少ないモノトーンの中にハスの茎の線が映りこみと合わさり複雑なデザインが芸術的です。この部分をこの明るさで切りとったセンスが素晴らしい。

入選 「晩秋一景」 三浦 明彦



【評】 一羽をアップにねらうのが意外と難しいのですが、この作品はかなり寄れていて印象的です。光線が低く、背景の空や水面も黄色く光り、ヒシクイにもきれいな光が当たった瞬間が良かったです。翼の形も良いタイミングです。

入選 「群 翔」 伊藤 孝喜



【評】 数あるマガンが一齐に飛び立つ作品の中で、この作品は珍しい光景で目を引きました。かなり近いところでごちら向きに飛んでくるグループと、背景を埋め尽くす様に群れて飛ぶグループとの二段構成が立体的で飛び出して来そうです。

入選 「暮れ行く内沼」 高橋 達也



【評】 夕日を背景に鳥と遊ぶ母娘のシルエットが暖かさを感じます。低い位置から狙っているので人物とハクチョウの存在感が強調されています。太陽の光がまだ強いので完全に人物に隠してしまえたらさらに良かったと思います。

入選 「大空に響く」 千葉 学



【評】 2021年はこの日がとても良い条件だったのでしよう。これだけの広い空をまんべんなく埋め尽くしているのは、半端ない状況だと思います。天気、太陽のタイミング、マガンの数と飛び方の好条件と水面のハクチョウが揃っています。

入選 「感 動」 青田佳代子



【評】 同じ様な瞬間をほぼ隣で撮られた作品ですが甲乙付け難いので両方入選です。レンズが少し望遠な分マガンの密度が高く感じます。設定の違いにより赤みが強く印象も違います。画面全体のシャープネスも良く瞬間も良いです。